

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------------|---------------------------------------|----------------|------------|
| 事業所番号 | 1473600706 | 事業の開始年月日 | 平成16年6月1日 |
| | | 指定年月日 | 平成16年6月1日 |
| 法人名 | 有限会社 松田メディカルサービス | | |
| 事業所名 | グループホーム しんばしの家 | | |
| 所在地 | (〒245-0009) | | |
| | 神奈川県横浜市区新橋町1515-2 | | |
| サービス種別 定員等 | <input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 | 登録定員 | 名 |
| | <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護 | 通い定員 | 名 |
| | | 宿泊定員 | 名 |
| | | 定員計 | 18名 |
| | | ユニット数 | 2ユニット |
| 自己評価作成日 | 平成21年11月21日 | 評価結果 市町村受理日 | 平成22年2月12日 |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

| |
|---|
| 法人内の訪問看護ステーションとの連携の下、認知症の方々がなるべく環境の変化によるダメージを少なくするよう、ご家族と話し合いをしながら、出来るだけ長く当ホームでの生活が出来る援助を方針としている。毎日、入浴を実施し、健康管理や清潔保持に努めている。 |
|---|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|-----------------------------|---------------|---------|
| 評価機関名 | 社団法人 かながわ福祉サービス振興会 | | |
| 所在地 | 神奈川県横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年12月8日 | 評価機関 評価決定日 | 22年2月4日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

| |
|---|
| <p>【事業所の概要】 当事業所は、相模鉄道いずみの線緑園都市駅から徒歩約10分の住宅地に立地し、静かな環境にある。平成16年6月に開所した。2ユニットのため、入り口が2箇所あり、個人の二世帯住宅を思わせる外観である。内部は和洋折衷の造りで、木造建築の良さも採り入れながら、落ち着いた雰囲気のあるバリアフリー設計となっている。 事業所の理念は、「利用者が求める生活に基づいた援助、環境づくり」、「利用者を支えるための地域づくりと社会づくり」を掲げ、利用者の実感できる毎日の生活を支えていくことが大切であると考えている。</p> <p>【医療連携体制】 運営法人の代表者は看護師で、訪問介護、訪問看護ステーション、グループホームなどを数カ所運営し、福祉・介護・看護サービスの事業を展開している。 事業所は医療連携体制加算の指定を受けており、医師、訪問看護ステーションの看護師と連携し、24時間連絡体制をとり、安心して医療を受診できる体制にある。</p> <p>【関係者・関係団体との交流関係】 運営推進会議は3か月に1回開催し、利用者家族、自治会役員、民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員が出席して意見交換を行い、有意義な会議となっている。 管理者は認知症介護実践者研修の講師を委嘱され、介護現場の実践面の指導と実習生の研修の受け入れも行い、介護事業の人材育成に活躍している。グループホーム連絡会にも出席し、地域の同業者と交流を深めている。</p> <p>【入浴の体制】 利用者の体調にも考慮しながら、毎日の入浴を勧めている。入浴し身体を温めることにより、身体機能のリハビリテーションとなり、レクリエーションともなる。血行を良くし、睡眠障害、肺機能の働きにも最適であると考えている。</p> |
|---|

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域 | 自己評価項目 | 外部評価項目 |
|------------------------------|---------|---------|
| I 理念に基づく運営 | 1 ~ 14 | 1 ~ 7 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 15 ~ 22 | 8 |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23 ~ 35 | 9 ~ 13 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 36 ~ 55 | 14 ~ 20 |
| V アウトカム項目 | 56 ~ 68 | |

| | |
|-------|----------------|
| 事業所名 | グループホーム しんばしの家 |
| ユニット名 | 木の実 |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ | 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | ○ | 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「利用者を支えるための地域づくり、社会づくりに必要な情報や提案の発信をしていきます」という理念を掲げ、地域交流や入居者のケアにつなげている | 理念は、開設当初に運営法人の代表者の思いを込めて、代表者と管理者が作成した。理念は1階、2階の事務室と玄関に掲示し、職員は入職時の研修、日頃の会話やミーティングの中で話し合い理解を深めるように努めている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事に参加し交流を図るとともに入居者が入居前から通っていた美容院などを継続して利用している | つながりが強い地域の中にあり、町内会・老人会に加入し、月1回開催される「子どもとお年寄りのふれあいサロン」に出席している。神社で催される演芸会を見物し交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の会議などに出席や運営推進会議などを通して、認知症の方の障害についての知識や技術などについて少しずつ伝えている | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 介護業務に携わる私たち以外の方の意見を聞くことにより、偏った考えから脱却し、より普通のご家族等の立場にたった意見を頂戴し参考にしている | 運営推進会議は3か月毎に定期的で開催している。会議では事業所の取り組みや行事の報告をし、意見交換を行い、地域の理解と支援を得て運営面に反映するように努めている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | おもに運営推進会議などを通してケアの難しいケースの場合等、アドバイスをいただいている | 管理者は区役所の高齢支援課、生活保護課に機会ある毎に出向いている。運営や現場の実情・業務上の問題点を報告し、指導と助言を仰いでいる。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠は行っていない。認知症の方の障害にであった時にはケアに課題はなかったかと自分たりのケアを振り返り、行動障害に至らないようなケアを検討している | 「身体拘束ゼロへの手引き」が備えられ、勉強会を実施し、正しい理解に努めている。玄関の鍵は施錠せず開閉時に鳴る風鈴を付け、安全面を確保しながら目配りに努めている。居室の鍵は本人に任せている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修や内部研修を行い、正しい知識を身につけ、その上で日頃からケアについて、ケアする介護者の心得について話しあうようにしている | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修などに出向き、正しい知識を身につけ、必要があれば、その関係者と話し合うようにしている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書を一緒に読み、項目ごとに質問していただける雰囲気や時間をつくるようにしている | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議や家族会などを利用して話し合いの場を設け、質問や要望等があった場合には後日、検討した内容を手紙などでご家族へ報告するようにしている | 苦情や要望の担当窓口は、重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。玄関フロアには「ご意見箱」を備え、運営推進会議や、家族の来訪時にも意見や要望を聞いて運営に反映している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | パート会議や、運営会議、勉強会などの話し合いの機会をなるべく多く設け、提案などがあつた場合には、なるべく早く答えを出して、申し送るようになっている | 管理者は全体会議、常勤者会議、パート会議などの際に、日常業務の要望・意見を聞き改善や業務の向上に反映している。運営法人の代表者も各事業所の意見・提案を傾聴し、事業に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者はほぼ毎日、事業所を訪れ、職員一人ひとりに絶えず声をかけ、提案などがあつた場合には、管理者と話し合い、なるべく早く答えを出して対応に努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修には研修手当を出すなどして職員一人ひとりのスキルアップが出来る環境づくりに努めている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 代表者は、職員の経験等を考慮しながら、外部研修や他の事業所との交流の場へ参加を促している | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の面接でご本人の思いをお聞きし、気軽に質問や要望が話し合いやすい雰囲気や時間をつくっている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の面接でご家族の思いをお聞きし、気軽に質問や要望が話しやすい雰囲気や時間をつくっている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居契約と同時に短い期間でのケアプランを作成し、入居してからのご本人へのケアの具体的内容について説明している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人からのお話や行動が自由に出せるような雰囲気と関係性を日頃より築いている | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人、ご家族、職員が一つの方向性と目標をもってそれぞれの立場で努力できるように常に話し合いをしながら確認している | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居者が入居前から通っていた美容院やサロンなどを継続して利用している | 職員は利用者の行きつけの美容院や昔なじみの喫茶店へ同行することがある。時には利用者の友人の来訪、電話や手紙もあり、馴染みの関係を継続するように支援している。家族の命日の墓参りに行くこともある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係性を理解した上で一人になりたい時、みんなといたい時を職員が見極めながら雰囲気作りに努めている | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 一部のご家族ではあるが、ボランティアや運営推進会議などに参加していただいている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | まずは、アセスメントの充実に努めている。それと同時に記録や観察力の技術について、日頃のケアや勉強会などで職員に伝えている | 職員は日頃より観察力を身につけるように努め、利用者の行動や会話から意向や希望を汲み取り、把握し、共有化している。意向の表出が困難な方には1対1の外出時や入浴の際のゆったりとした時間に話を聞いている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の面接時の家の様子や普段の生活についてお聞きし、居室の環境づくりからご家族と話し合いを行っている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 訪問看護ステーションの看護師や往診医と連絡をとり、心身状態について把握している。同時にアセスメントの充実、アセスメントについての外部研修や内部研修を行っている | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人に身体的精神的な変化が現れた時には、ご本人、ご家族やその事例に必要なアドバイザー（往診医、看護師）に参加していただき、今後の方向性を示しケアプランを作成している | 介護計画はアセスメントを基に利用者や家族の意向を尊重し、職員間で話し合っ作成している。モニタリング後、カンファレンスを行い、主治医・看護師の所見も入れて見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録の重要性、必要性を勉強会などで話し、アセスメントの充実に活かすように努めている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 法人内の人材、または同業者の他の施設、運営推進会議などで話し、自分たち以外の人の発想やアイデアを参考にしている | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | しんばしの家だけで入居者の生活が完結しないようになるべく外へ出るための取り組みや地域資源を利用できるように検討している | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 面接時やその時々でご家族に確認を行っている | 本人や家族の希望するかかりつけ医による医療を継続して受診できるようにしている。特に希望がなければ協力医療機関の内科医の訪問診療を受診できる体制となっている。医療情報は個人記録に記帳し情報の共有に努めている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常に連絡を取り合い、情報の共有とアドバイスを受けている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院と同時に退院のタイミングや予後についてご家族とともに説明を聞くようにしている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | (ご本人)、ご家族、医師、看護師、介護者で話し合いの場をもち、今後の方向性を決め、ケアプラン～介護につなげている | 看取りを6名行っている。利用者・家族には重度化した場合について説明し、同意を得ている。急変時には主治医、看護師、家族、職員が話し合い最善の方法を採るようにし、これらの方針は関係者間で共有している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 勉強会で確認している | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の訓練を行うとともに地域の訓練にも参加するよう努めている | 防災・避難訓練は年2回、消防署の協力を得て実施している。夜間の2階からの出火を想定し、ベランダへ避難する訓練を実施している。職員による自衛消防隊が結成されている。 | 非常時における地域との協力体制を築くため、運営推進会議などを通じての地域への働きかけが期待される。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 日常のケアの中で気がついた時に話し合いをしたり勉強会を行っている | 職員は入職時に守秘義務に関する誓約書を提出している。個人の尊厳を大切にし、日頃よりプライバシーを損ねることのないように言葉遣いに配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 選択肢をいくつかついたり、「～しなければならない」という支援ではなく「～しませんか」の雰囲気大切にしている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している | 上記と同様に、選択肢をいくつかついたり、「～しなければならない」という支援ではなく「～しませんか」の雰囲気を大切にしている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 認知症の方が自分を表現することが難しいという事も考慮しながら日頃の何気ない会話の中から好みなどを見極めてケアに活かしている | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 上記と同様に、認知症の方が自分を表現することが難しいという事も考慮しながら日頃の何気ない会話の中から好みなどを見極めてケアに活かしている | 利用者は職員と一緒に料理の下ごしらえ、配膳、下膳を行っている。職員は利用者と同じ物を一緒に食べ、介助もしている。誕生会では好みのメニューを提供している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 往診医による血液検査の結果を訪問看護師に伝え、同時に栄養や水分補給に関するアドバイスをもらっている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 往診歯科を利用した時には必ず口腔に関するその人にあった指導を受け、はみがきの時間には必ず入居者一人ひとりに付き添って支援を行っている | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | トイレでの座位がとれる方は必ずトイレでの排泄を促し、支援している | 水分・排泄チェック表によるパターンの把握や様子に留意しさりげなくトイレ誘導を支援している。トイレ誘導は周りの利用者に気遣い、他の人から見えない場所での声かけを心掛けている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 薬だけに頼らず、腹部マッサージや温湿布などを行い、同時に水分や献立の調整も行っている | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴は毎日行い、ご本人のなりの一日の流れを断ち切らないようにタイミングを合わせて行っている | 管理者は、「入浴は健康を保つ大事な要素の一つ」と考え、毎日の入浴を支援している。その日の利用者の心身状態や医師の所見も考慮し、清拭も行っている。入浴をしたがらない方には気分が落ち着いている時などタイミングを考えて対応している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご自分から体の不都合や疲れ等の表現が困難であることを考慮に入れながら表情を窺いながら休息をとっていただいている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 往診医にから薬の処方についての説明を受け、記録に残し職員への周知をはかっている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常のご本人との会話などの中から、その方の望んでいる事を見極めながら、役割や楽しみごとが実現できるように支援する事の重要性を日頃から職員に伝えている | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | なるべくホーム内でその方の生活が完結しないように、お一人お一人の身体状況や障害などを考慮しながら支援している | 利用者は天候や体調、希望に応じて、事業所の周り、公園などの散歩に出掛けている。車椅子の方も一緒に出掛けている。買い物や1階のベランダでの日光浴もしている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買物の際には、支払いの場面を一緒に行っている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 遠方にいる身内の方には、ご本人と一緒に手紙を書くように支援している | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者おひとりお一人が「ここにいてもいいんだ」という安心感をもっていただけるような環境を配慮している（木のぬくもりのある空間） | 共用空間は広く、明り取りもあり明るく、清潔に保たれている。和洋折衷の木造で、居間には、段差がなく、障子のある和室がある。トイレは各階に3箇所あり、居室から近いトイレを利用できるように設計されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | オープンスペースと2～3人で過ごせるスペース、そして居室とご本人が選択し何気なく利用できる空間をつくれるように工夫している | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前の面接時にご本人やご家族に居室の環境づくりについて説明をし、認知症の障害を考慮しながら一緒に居室の環境づくりを行っている | 居室には自宅で使い慣れた調度品、テレビ、家族の写真、仏壇が飾られてある。一人ひとり個性のある居心地よく過ごせる居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 認知症の見当識障害などによりご本人が不安にならないように、迷わないように、また家庭的空間を壊さないような環境づくりに努めている | | |

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------------|--|----------------|-----------|
| 事業所番号 | 1473600706 | 事業の開始年月日 | 平成16年6月1日 |
| | | 指定年月日 | 平成16年6月1日 |
| 法人名 | 有限会社 松田メディカルサービス | | |
| 事業所名 | グループホーム しんばしの家 | | |
| 所在地 | (〒245-0009) 横浜市泉区新橋町1515-2 | | |
| サービス種別 定員等 | <input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 | 登録定員 | 名 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護 | 通い定員 | 名 |
| | | 宿泊定員 | 名 |
| | | 定員計 | 18名 |
| | | ユニット数 | 2ユニット |
| 自己評価作成日 | 平成21年11月21日 | 評価結果 市町村受理日 | |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

| |
|--|
| <p>法人内の訪問看護ステーションとの連携の下、認知症の方々がなるべく環境の変化によるダメージを少なくするよう、ご家族と話し合いをしながら、出来るだけ長く当ホームでの生活が出来る援助を方針としている。毎日、入浴を実施し、健康管理や清潔保持に努めている。</p> |
|--|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|--|---------------|--|
| 評価機関名 | | | |
| 所在地 | | | |
| 訪問調査日 | | 評価機関 評価決定日 | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

| |
|--|
| |
|--|

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域 | 自己評価項目 | 外部評価項目 |
|------------------------------|---------|---------|
| I 理念に基づく運営 | 1 ~ 14 | 1 ~ 7 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 15 ~ 22 | 8 |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23 ~ 35 | 9 ~ 13 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 36 ~ 55 | 14 ~ 20 |
| V アウトカム項目 | 56 ~ 68 | |

| | |
|-------|----------------|
| 事業所名 | グループホーム しんばしの家 |
| ユニット名 | 木の花 |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ | 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | ○ | 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「利用者を支えるための地域づくり、社会づくりに必要な情報や提案の発信をしていきます」という理念を勉強会等で共有し、地域交流や援助に繋げている。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入し、地域の行事に参加している。 ボランティア、実習、地域の方の訪問を積極的に受け入れ、交流を図っている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 自治会や運営推進会議でホームの状況を報告し、その中で出た質問に応じる形で、認知症の人の理解や支援方法を発信している。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 3ヶ月に1度運営推進会議を行い、ホームの状況や事例等話し合いを行っている。包括支援センター、行政、地域、家族と多方面からの意見を取り入れ、サービスに活かしている。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の他、地域事業者の会議に積極的に参加し、情報交換を行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部研修や勉強会を行い、正しい知識を身につけ、日頃から身体拘束をしないケアについて考え話し合い実践している。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている | 外部研修や勉強会を行い、正しい知識を身につけ、その上で日頃からケアについて、ケアする介護者の心得について話しあうようにしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修などに出向き、正しい知識を身につけ、必要があれば、その関係者と話し合うようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に質問を受け、説明を行っている。改定時には、家族会を開く等、理解していただけるよう心掛けている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者や家族との会話から、意見を聞き取るよう心掛けている。意見箱の設置や、苦情窓口の掲示等、職員に直接言いにくい事にも対応しており、外部からの助言を受けながら、意見を反映させるようにしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は勉強会や日々の交流の中で、常に職員に問いかけ、意見を聞くようにしており、迅速な回答、対応をしてくれている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は管理者から報告を受け、勤務状況の把握や改善に努めている。 また、1年に1度自己チェック（上司、代表者チェック）を行い、各自の実績を評価してくれている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修には研修手当を出すなどして職員一人ひとりのスキルアップが出来る環境づくりに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 代表者は、職員の経験等を考慮しながら、外部研修や他の事業所との交流の場へ参加を促している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の面談から、不安や要望を聞き取り話し合うようにしている。スタッフは情報を共有し、統一の対応を心掛けている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の段階から、ご家族の不安や要望を聞き取り、話し合うよう心掛けている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談で得た情報から、ご本人ご家族の希望や、必要な援助について検討し、ケアプランを作成している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常生活の中で、ご利用者から教わること、助けられることも多い。共に過ごすことで、自然と支えあう関係が出来てきた。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族の負担にならない範囲で協力していただくようお願いしている。 援助方法についてご家族に相談し、アドバイスをいただくことも多い。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族、親戚、知人の方いつでも面会していただけるよう、面会の制限をしていない。希望の方には電話や手紙の支援を行っている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者同士、自然と支えあえる関係が出来ている。またご利用者同士の関係や状況を見極めたうえで、コーディネートすることもある。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後、ご家族からの相談に応じている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 入居前の面談時にグループホーム入居後、どのような暮らしを希望されているかお聞きしている。入居後は日々の会話から掴み取るよう努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の面談時に、生活ぶりやリズムについてお聞きしている。また、差しさわりのない範囲で生活歴を記入していただき把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日の様子、心身の変化は個人記録へ記録し、職員で共有している。現状の把握と変化に適した対応に努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人やご家族の意見を尊重し、介護計画の基となるアセスメントやモニタリングでは、職員に意見してもらいながら介護計画を作成している。必要によっては看護師等にも相談している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員は記録で情報を共有し、特に統一ケアを行いたいときには赤文字で記入するなど工夫している。実践と結果は介護計画に反映させている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 法人内の人材、または同業者の他の施設、運営推進会議などで話し、自分たち以外の人の発想やアイデアを参考にしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のボランティア、学生の実習等、積極的に受け入れている。 またパトロール活動を行い、地域貢献に取り組んでいる。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 面接時やその時々でご家族に希望をお聞きしている。 | | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常に連絡を取り合い、情報の共有とアドバイスを受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中の経過や状態を確認しながら、早期退院に向けての体制を整えるようにしている。 場合によっては、ご家族と病院との面談に立ち合わせていただいている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご家族、医師、看護師、介護者で話し合いの場をもち、今後の方向性を決め、ケアプラン～介護につなげている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ほぼ全てのスタッフが救急に関する研修を受けている。勉強会でも繰り返し確認している。 | / | / |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ホームでは火災や地震を想定した避難訓練を年に2回行っている他、地域の訓練にも参加している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者に対しての言葉遣いや対応だけでなく、職員同士の口頭の申し送り時に、個人の名前や排泄の内容等、配慮のないものはないか注意している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者の状態にも合わせ、聞き取る、問いかける、選択していただく、汲み取る等、自己決定に繋がるような支援を心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している | 1日の流れと職員の役割を決めているが、ご利用者の希望やその日の状況に合わせ、柔軟に対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好みやこだわり、その方らしさを尊重している。ご家族の協力で、行きつけの美容院に通われる方もいる。 | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご利用者の持つ力やご利用者同士の関係性を見極め、準備や片付けに参加していただいている。食事中は安心して食べることが出来るよう、環境を整えている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の量や形状等、各自の状態に合わせて用意している。個々に応じ、水分摂取量の確認を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを行い、職員が口内の状態を確認するようにしている。変化が生じたときには往診医へ相談している。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | トイレでの排泄を基本に、安心して排泄出来るよう支援している。個々に応じ排泄記録をつけている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 全体では便秘に効果的な飲食物を取り入れるようにしている。個人でも牛乳やヨーグルトを取り入れたり、腹部マッサージを行う等工夫している。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 毎日入浴を行っている。安心して入浴出来るよう環境を整え、入浴したい時間や、湯加減等一人ひとりの希望に合わせた支援を行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は一人ひとりの体力、体調を確認し、夜間の睡眠に配慮しながら、休息していただいている。また、夜間は居室内の明るさや馴染みの物等、安心して眠れるよう環境を整えている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の確認が出来るよう、薬の説明書は個人記録にファイリングし、薬の変更や医師からの指示は記録に残している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | やりたい事、やってみたい事を実現出来る様支援している。それを表現出来ない方には、楽しめそうなことにお誘いしたり、自信が持てるような活動にお誘いする等心掛けている。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や買い物、地域の行事やイベントに出掛けている。 ご家族やボランティアの協力もある。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人が所持するお金については、ご家族と相談をしながら決めている。 お金の使い方については、優先順位を一緒に考えながら使えるよう支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の希望に合わせた支援を行っているが、電話は相手先の影響にも配慮している。 手紙は出来るだけご本人が書けるよう支援している。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 花や小物を置く等、家庭的な雰囲気と季節感を取り入れるようにしている。 ご利用者が敏感な、声や物音に注意している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ユニットの中央に共有スペースがあり、それを囲むように各自の居室がある。人目の少ない場所にベンチを設置し、それぞれの場所で自由に過ごせるよう工夫している。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人ご家族と相談し、ご利用者の使い慣れた物や好みを取り入れ、安心かつ安全な居室となるよう環境を整えている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 家庭的な雰囲気を保ちつつ、違和感のない手すりを取り付ける等、安全面にも配慮された造りとなっている。また、さりげない目印を付ける等工夫している。 | | |